

ウコンの短日処理による開花（吉村 衛）

Mamoru YOSHIMURA : A Short-day Treatment on *Curcuma domestica* Valeton (Zingiberaceae).

鉢植えにしたウコン *Curcuma domestica* Valeton に短日処理を施し、所期の通りに開花させることができた。ウコンの短日処理開花の記録はないうなりで、概要を記録・報告しておく。

1989年秋、共立薬科大学から「国際花と緑の博覧会」(1990年4月～9月)にウコンを出展するため、8月18日～9月2日の展示期間中に開花させたいとの相談を受けた。

実施地(共立薬科大学薬用植物園=埼玉県浦和市)では、ウコンは毎年11月に根茎を掘り上げてむろで越冬させ、5月頃圃場に定植しており、例年10月後半に開花するという。とりあえず、むろに貯蔵されたウコンの根茎を5月8日に鉢(砂と堆肥=5:1)に植え、屋外に置いて通常通り1日1～2回(7月からは2～3回)灌水して葉を生長させた。(その間、5月30日と7月10日の2

回、油粕を追肥した。)

同地での10月1日～15日の日没から日の出までの時間は約12時間10分～12時間40分である(理科年表)ので、所期開花日の約20日前から12時間以上の充分な暗期を与える花芽を誘導できるのではないかと考えた。実際には、屋外に置いた鉢を7月26日から毎日日没後に暗室に入れ、午前9時に屋外に出すという処理を行ったところ、8月6日に開花した。(花茎が地上に現れた時期は記録されていない。)わずか10日の暗処理で開花したことになる。開花後はそのまま屋外に置いた。花茎・花序の大きさも花の大きさ・開花数も全く正常で、花は展示期間終了後まで咲き続けた。

実際の処理はすべて同大学薬用植物園の守富邦明氏にお願いしました。記して感謝します。

(杏林大学 医学部)

橙黄色の果実を結ぶモミジカラスウリの分布(中山至大・井之口希秀)

Shidai NAKAYAMA and Marehiko INOKUCHI : Distribution of *Trichosanthes multiloba* Miq. Bearing Orange-yellow Fruits

モミジカラスウリ *Trichosanthes multiloba* Miq. は鮮赤色の地色に橙色の縦条模様のある果実をつけ、その分布は本州(静岡県・愛知県・近畿地方・岡山県)・四国・九州本土などの、暖帯であると言われている。しかし、10数年来継続している野生植物の種子収集の過程で、私たちは、宮崎市周辺のモミジカラスウリの果実は、鮮赤色に橙色の縦条模様にならずに、橙黄色一色に成熟するのを観察してきた。

そこで、まず、宮崎県内はもちろん、九州本土(長崎県も調査したが、果実の採集はできなかつた)・四国(高知県)・本州(和歌山県・奈良県)まで、調査範囲を広げ、主要地点について調査した。その結果、赤色果実を結ぶ個体は見当たらず、果実はいずれも橙黄色に成熟するものばかりであった(表1)。上記の分布地域のうち、未調査地域に、従来の赤い果実を結ぶモミジカラスウリが生

育しているのか、あるいは、既に調査した地域に調査漏れがあるのか、あるいはまた、調査地域と未調査地域を含む地域でも、果実はすべて橙黄色に成熟するのか、今後の興味ある課題である。

なお、橙黄色の果実をつけるモミジカラスウリの生育地は、標高が約250mから約1,000mの、比較的湿潤な樹林内・日陰の多い林縁や道端などである。また、果柄の長さが、他のカラスウリ属に比べて長く、普通は10数cm、長いものは20数cmに達するものさえある。

貴重なご助言を賜った初島住彦先生(鹿児島大学名誉教授)、果実の収集にご協力いただいた山中三男博士(高知大学教授)・前田亥津二氏(和歌山県海草郡美里町鎌滝101)・上田文夫氏(和歌山県伊都郡高野町花坂)・平山貴久氏(高知大学)・木村宏氏(宮崎市MRT開発株式会社)に衷心より感謝します。